

技術・家庭科（家庭分野）

橋本 正恵

1. ESDの取り組みにあたって

本校では、平成26年4月よりESDに関する国立教育政策研究所の研究指定を受け、研究課題を「持続可能な社会の形成者として必要な能力や資質の育成～教科間のつながりを目指したカリキュラム開発を通して～」と定めて、各教科等の連携を中心としたESDの在り方を模索し、研究を行っている。各教科等の学習が持続可能な社会の形成のために生きて働く力となるよう、教材や題材のつながりを意識した学習活動の工夫を行っている。技術・家庭科の各学習内容は、生徒の生活そのものと深く関連しているものであり、各教科等で学習した内容が現在や将来の生活とどのように関わって行くかを示す手段となる。そのような教科の特性を生かして、技術・家庭科の学習では常に個々の生徒の生活の中にある課題や疑問を見取り、その解決に向けての思考をねらった題材を工夫していくことを重視している。

また、技術・家庭科家庭分野は、「A家族・家庭と子どもの成長」「B食生活と自立」「C衣生活・住生活と自立」「D身近な消費生活と環境」の4つの内容から構成されている。そして「D身近な消費生活と環境」の学習に関しては、取り扱い方について学習指導要領解説に「適切な題材を設定し、『A家族・家庭と子どもの成長』、『B食生活と自立』又は『C衣生活・住生活と自立』の学習と相互に関連を図り、総合的に展開できるよう配慮する。」とされており、単独で消費や環境について扱うのではなく、他の内容の学習とともに題材を構成し、同時に学習するとされている。「D消費生活と環境」は、学習において獲得された知識や技術を生活の中でどのように活用されるのかを結びつける鍵となる学習となる。つまり、大きな目で捉えれば、技術・家庭科の学習では、どの内容を扱うときにも、環境や自分たちが置かれている社会の状況と切り離すことはできないことから、常にESDの視点を意識して題材を工夫しなければならないと考えている。

2. ESDと学習目標

(1) 技術・家庭科家庭分野で特に重視したいESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

技術・家庭科の学習とESDについて、学習指導要領解説の中で、以下のように具体的にESDと関連が示されている。「社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方や環境等に配慮した生活の仕方に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、持続可能な社会における生活の営みへの足掛かりとなる能力と態度を育てることをねらいとしている。」とあり、個人としてよりよい生活を営むことと同時に、社会の一員として社会に参加し、よりよい社会を形成していくことが教科の目標であるとしている。またこれらのことを考え合わせると、技術・家庭科家庭分野の学習においては、扱うすべての内容でESDの視点に立った学習を構築することを目指し、学習の中で得た知識や技術が個々の生徒の生活の中でいきって働く力となるような題材の工夫が求められる。そのような学習の中では、ESDが求めるすべての概念・能力が関連してくることはもちろんであるがその中でも特に「①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ④コミュニケーションを行う力」の育成に重点をおいた学習指導を考えた。

(2) 思考力・判断力・表現力との関連について

昨年度まで本校では「思考力の育成」に焦点をあて、「思考の手立て」「思考の型」などについて検討を重ねてきた。

技術・家庭科における「思考力」は獲得した知識・技能を生活の中で働かせる力であり、「様々な制約条件の下で最適解を導き出す能力」と考えている。教科の学習で身に付けた知識や技術が実際の生活の中で活用されるためには、現実の制約条件を考慮しながらその場に応じた最適解を導き出し、実践へつなげられることが必要である。ESDの視点に立った学習指導においても、これまでの「思考力」の育成に関する指導を踏まえながら、社会の一員としてさらに現在から将来の社会の形成にまでつなげられる能力の育成をねらいたいと考えた。

3. 学習内容とつながり

技術・家庭分野の学習は、3年間を通して履修計画を作成することができることが、他教科と大きく違うことである。よって、他教科の学習と連携をはかる時、他教科の学習の時期を考慮して計画を組み直すことが可能である。今後、他教科の3年間の学習計画を参考に、よりつながりの深い年間計画を作成したいと考えている。

具体的なつながりとしては、例えば「B食生活と自立」の郷土料理を取り上げる題材では、社会の地理分野の学習と結びつけた題材を考えた。また、「C衣・住生活と自立」の衣服の成り立ちを扱う学習では、綿花を題材とした理科の植物について扱う学習とつながることができる。

今年度2年生で扱った題材「100人の村―衣生活編―をつくろう」では、生徒が日常の衣生活をふり返り、その中から課題を発見し、解決策を考える学習をおこなった。その時期に、英語の授業では、環境問題や資源の有限性についてのセヴァン＝スズキのスピーチを教材として学習をすすめており、両方の授業がよい形でつながることができた。

4. 実践例【2年生】

・題材名

- ・世界がもし100人の村だったら―衣生活編―

・題材観

技術・家庭科家庭分野の衣生活に関わる学習では、衣服の選択と手入れについての基本的な知識・技能とその活用の他、生活の中で計画的に衣服を使用できる能力を身につける学習がある。また技術・家庭科の目標「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」に照らし合わせて考えると、知識を実生活の中で活用し、よりよく生活を創造していく態度を身につけることが、より重要であると考えられる。実際の生活の中では、内容Cと内容Dを関連させて、よりよい衣服の選択・購入や社会の一員として適切な行動について考え、実践につなげることが必要である。特に、衣生活に関する学習では、消費者としての立場で考えることもより重要であり、個人的な要望と社会的な要望を交えたところで、自身の行動を決定しなければならない。これらのことをESDの視点に立って考えると、「相互性」：自分の衣生活・消費生活が

Let's do like Severn!

1) You must change our lifestyles.

自分のライフスタイルを変えてみよう。

- 服、くつ、かばんを衝動で買わない。(1週間考えて、まだどうしても欲しかったら買う)
- 2年間1度も着なかつた服は、物置に売ったりあげたりする。
- 買ってからは、ボロボロにならないうまで大切に使う。
- 壊れたものは、直せると思った。直す。

2) Severn said to the world leaders.

世界の指導者たちに向けて、発言しよう。

● 世界には人権費が安く、教育を受けられない子供がいます。その子供達の中には、綿花の栽培をしていても金が続かない上に防護服も着られなかつたため、殺虫剤に負けてしまい、死に至る子供もいます。世界の人権費の差をもっと小さくできないのかと思います。それによって、世界の経済が悪くなるかもしれないけど、人類の共存には何一つ変わらないと思う。お金だけが全てだと思うのは情けないと思う。

Let's do like Severn!

1) You must change our lifestyles.

自分のライフスタイルを変えてみよう。

- バasketボールに穴が開いたら、すぐに捨てちゃうので、最後まで使いきよ。自分が着せいと思つた服でも、何度も考えてかうかう。

2) Severn said to the world leaders.

世界の指導者たちに向けて、発言しよう。

- CO₂が出ない発電方法を考えて下さい。
- 物をいはい作らないで下さい。

持続可能な社会づくりのために、衣生活に関して、「自分のライフスタイルを変えてみよう」と「世界の指導者たちに向けて、発言しよう」の二つに分けて、意見をまとめた。形は英語の授業のセヴァン=スズキのスピーチに関する授業を受けている。